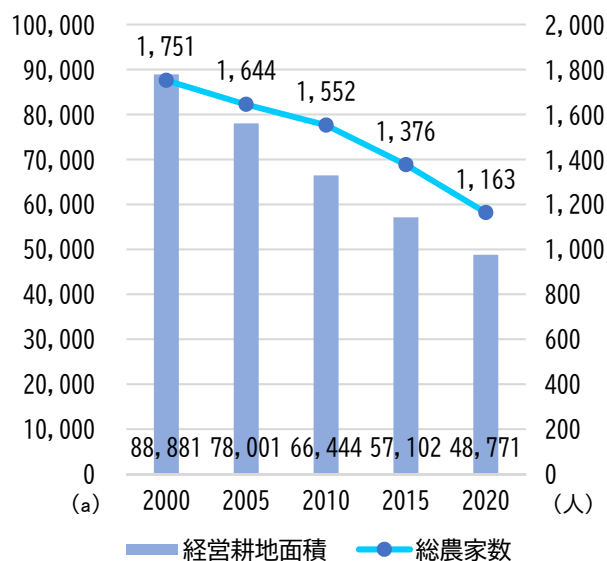


Ⅲ. 産業構造

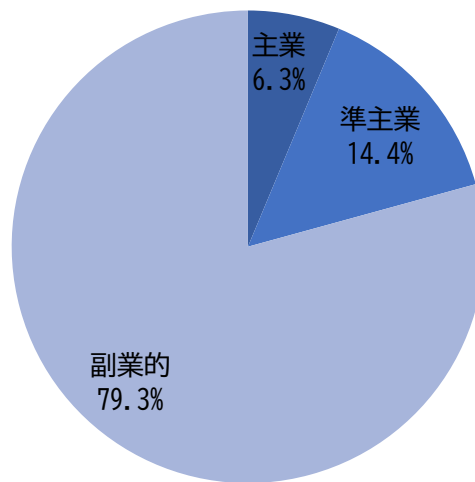
統計からみた御所市のすがた 令和6年度改訂版

1. 農業

■市内の農家数と経営耕地面積



■個人経営体の主副業比率



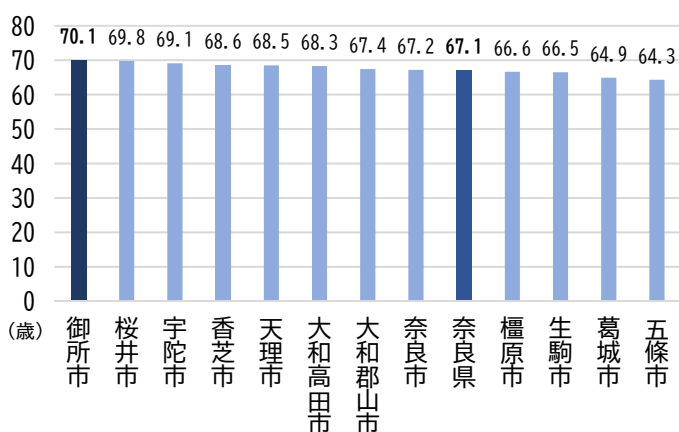
※個人経営体：個人(世帯)で事業を行う経営体

※主業経営体：農業所得が主(世帯所得の50%以上が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体

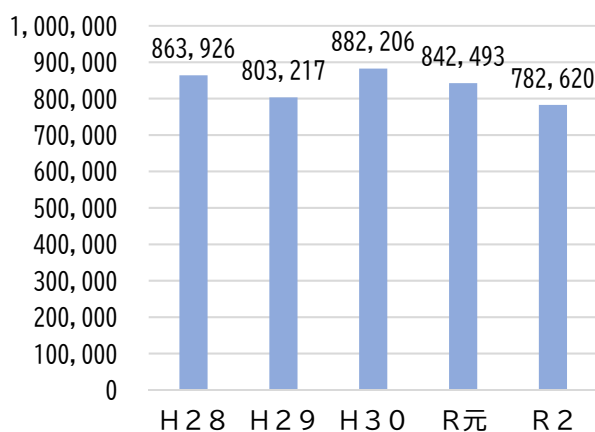
※準主業経営体：農外所得が主(世帯所得の50%未満が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体

※副業的経営体：調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員 がない個人経営体

■農業専従者の世帯員の平均年齢



■再生利用が可能な荒廃農地面積 (m²)



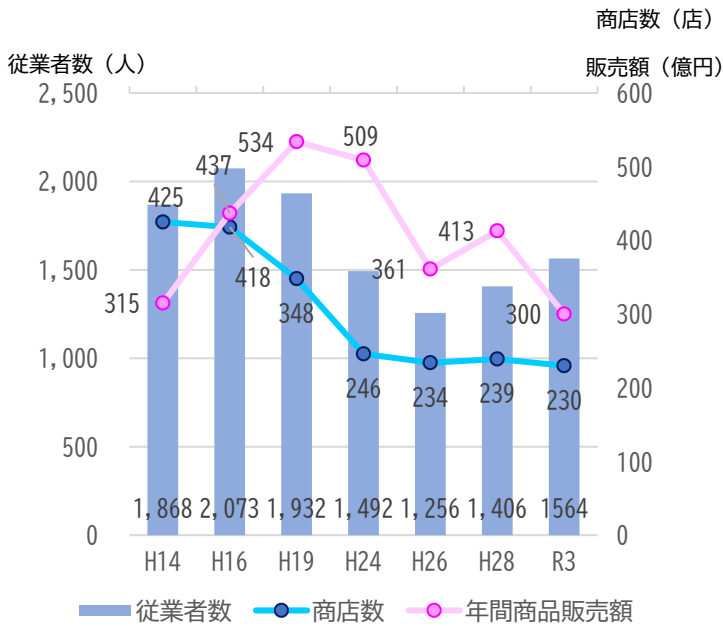
※農業専従者：調査期日前1年間に自営農業に150日以上従事した世帯員

調査時点：令和2年2月1日

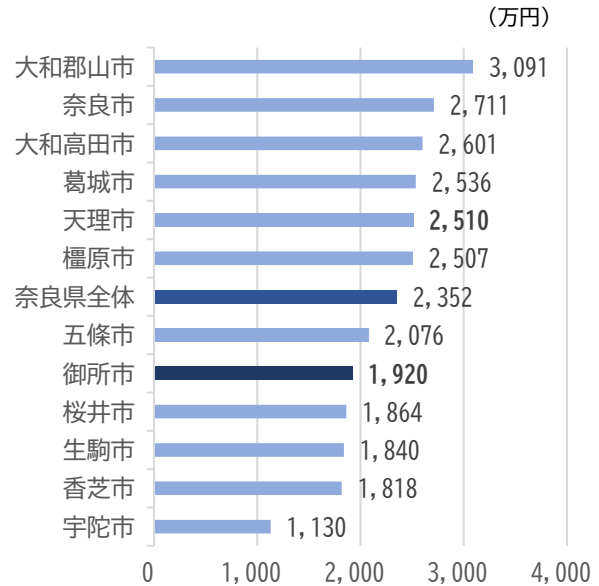
出典：農林水産省『2020年農林業センサス』を基に作成

2. 商業

■商業の推移

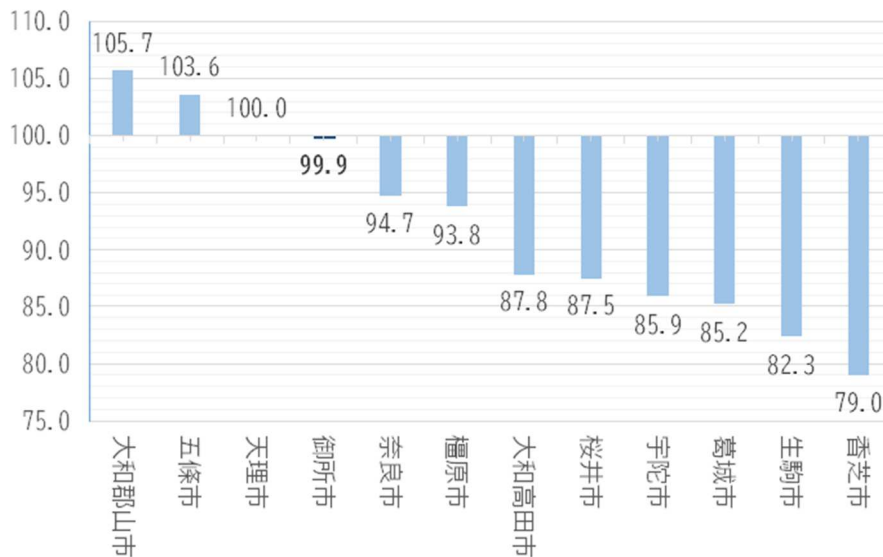


■従業員1人当たり年間商品販売額 (卸売業・小売業) (令和3年)



出典：総務省統計局『令和3年経済センサス 活動調査』を基に作成

■昼夜間人口比率の比較 (令和2年)



出典：総務省統計局『令和2年国勢調査』を基に作成

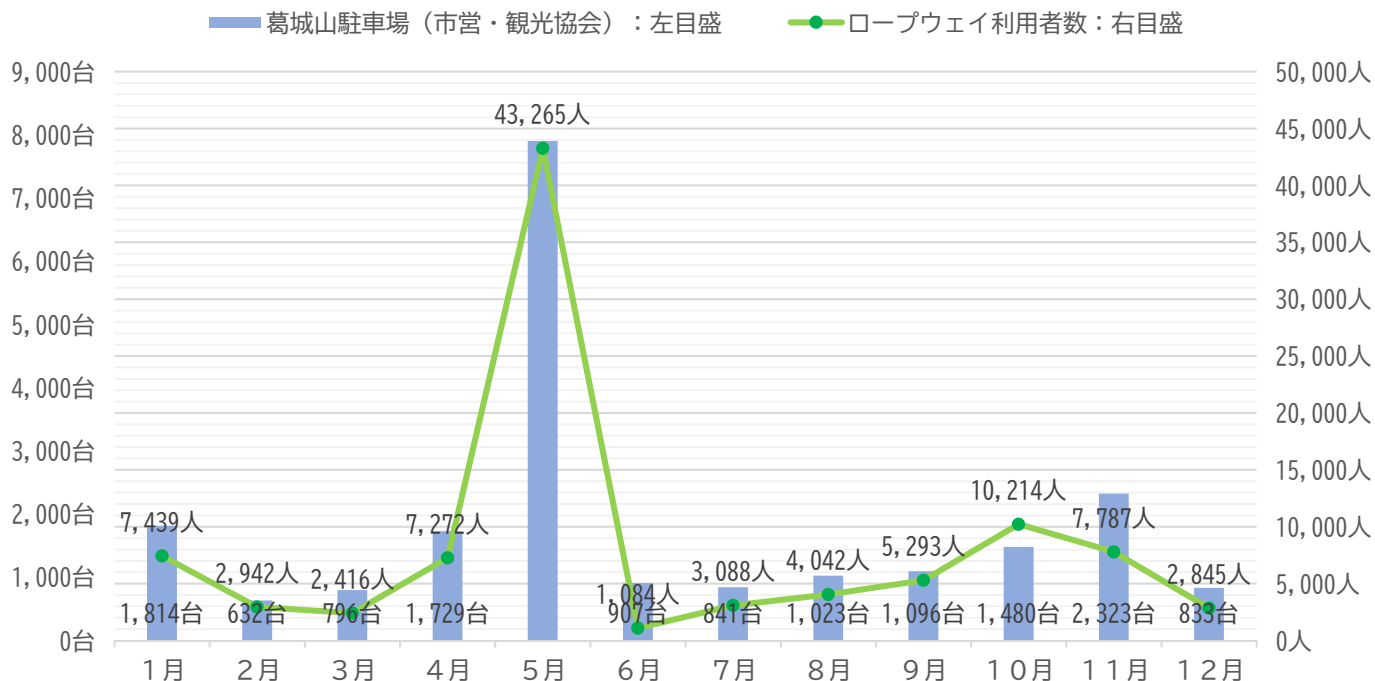
データから読み取る

商業の推移について、店舗数は減少傾向にあります。従業員数は増加しています。年間商品販売額は、ピーク時の平成19年と比べ令和3年は約234億円減少しています。

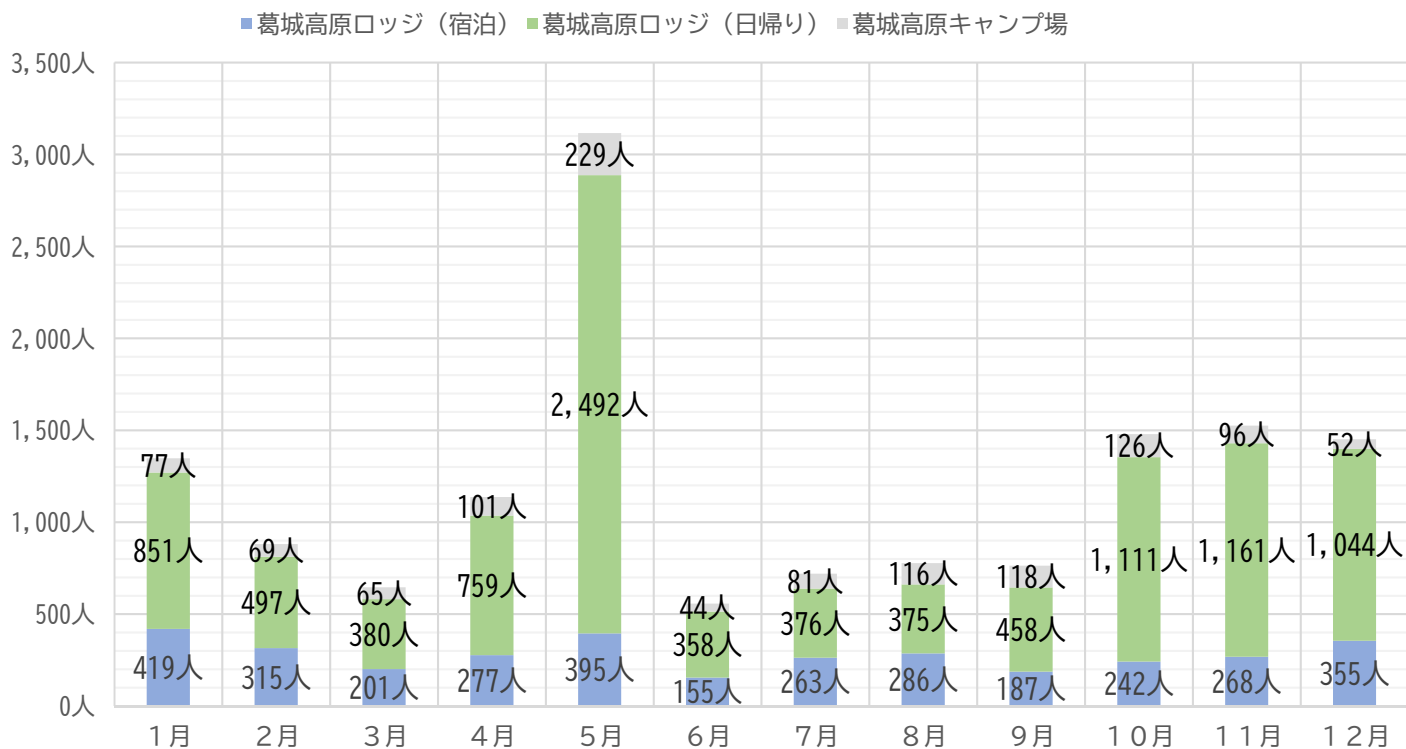
従業員1人当たり年間商品販売額は、年間商品販売額(円)を従業員数(人)で除したものです。ただし従業員は一人当たり8時間労働であると考え、例えば4時間勤務のパートは0.5人として計算しています。こちらは県内12市中、8位となっています。昼夜間人口比率とは、夜間人口を100とした場合の昼間人口の指数を指します。御所市は99.9であり、昼と夜で大きく人口が変わらないことがわかります。

3. 観光

■令和5年 主要観光地 利用者数等 (葛城山ロープウェイ、葛城山駐車場)



(葛城高原ロッジ宿泊、日帰り、キャンプ場)

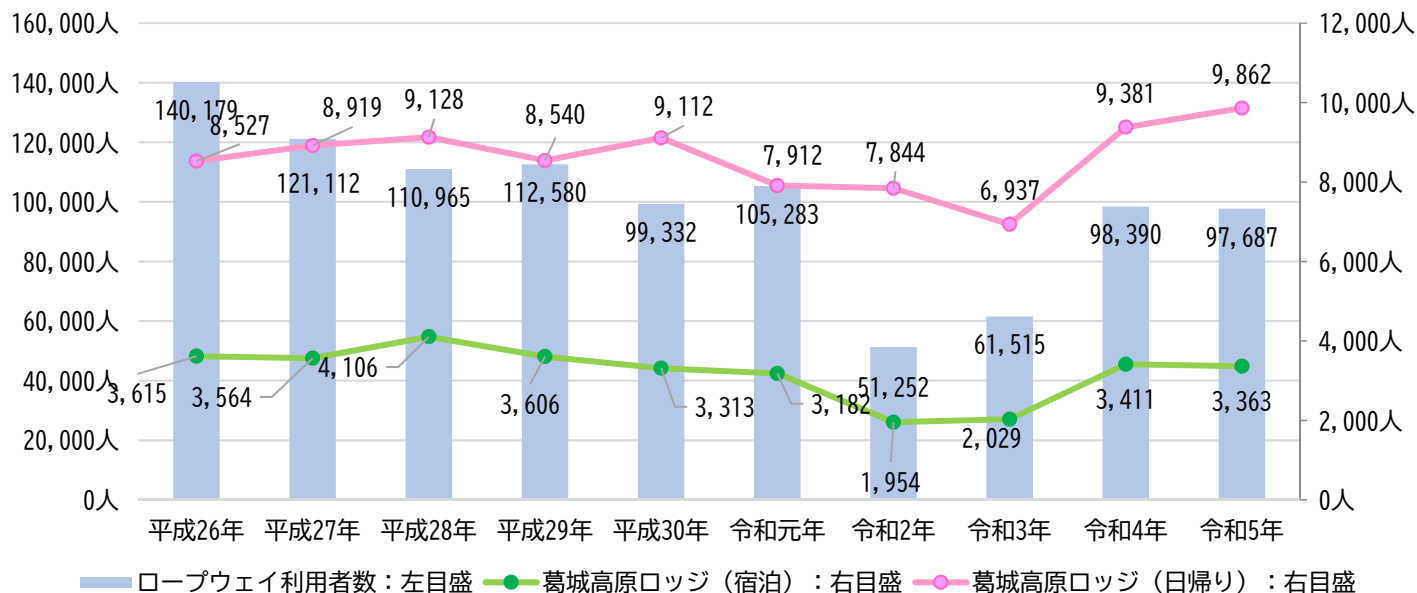


出典：御所市観光振興課保有資料を基に作成

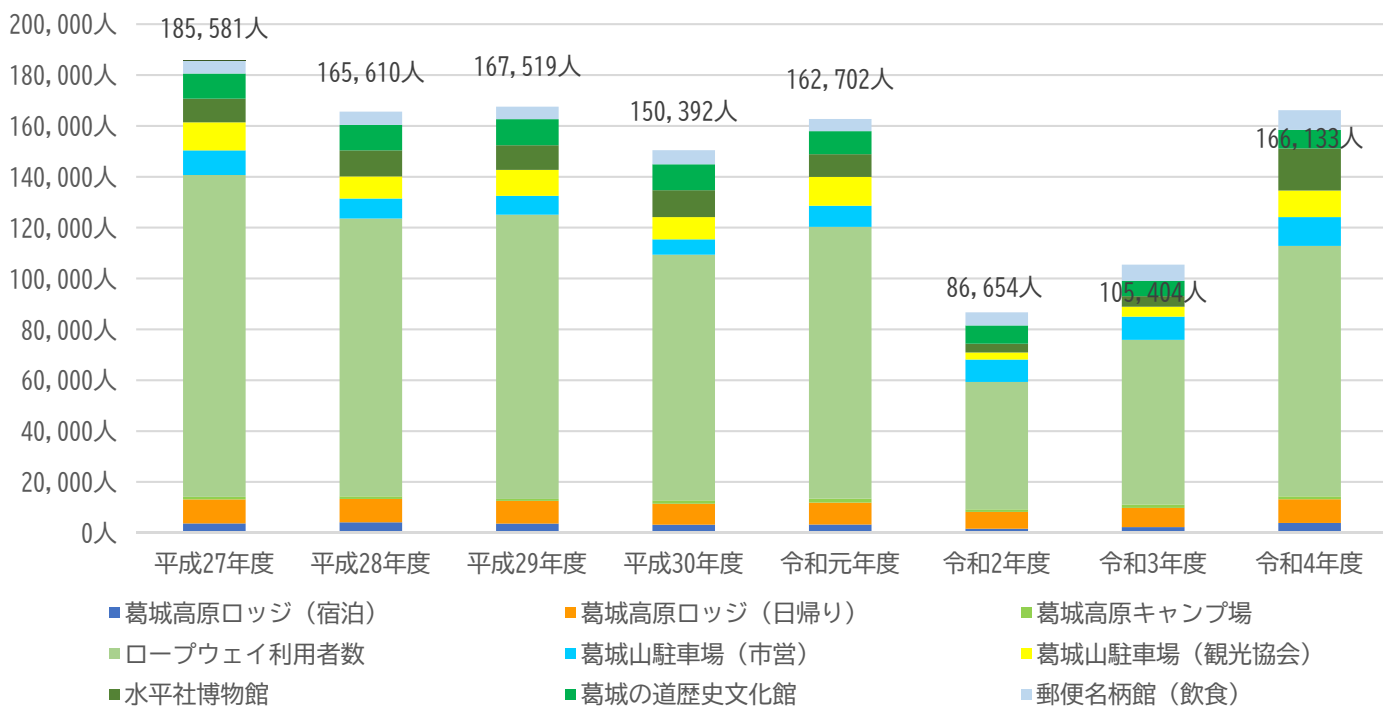
3. 観光

■主要観光地 利用者数等

(葛城山ロープウェイ、葛城高原ロッジ宿泊・日帰り利用)



(御所市主要観光施設入込観光客数)



出典：御所市観光振興課保有資料を基に作成

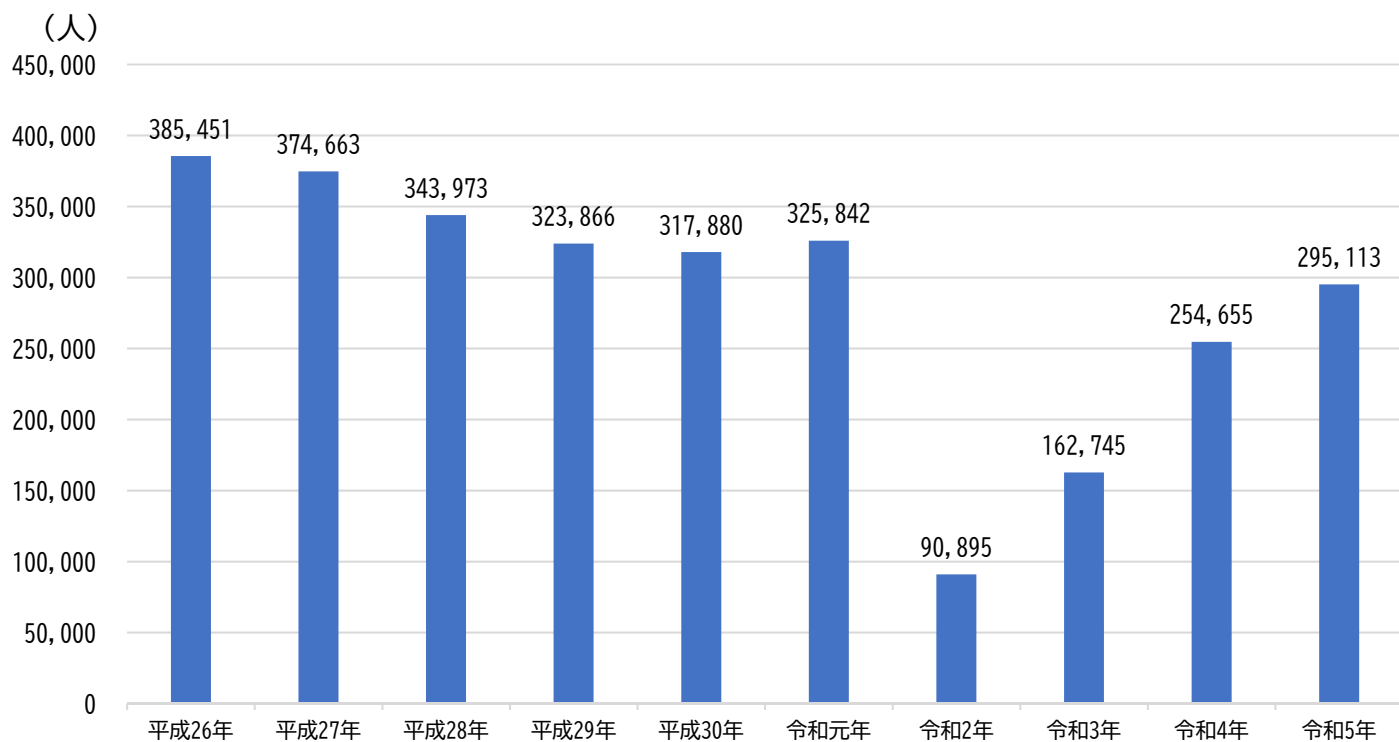
3. 観光

■主要観光地 利用者数等

(かもきみの湯入浴者数)

※令和2年4月18日～令和2年5月31日 感染拡大防止のため臨時休館

※令和2年6月1日～令和3年3月31日 大規模修繕工事のため休館



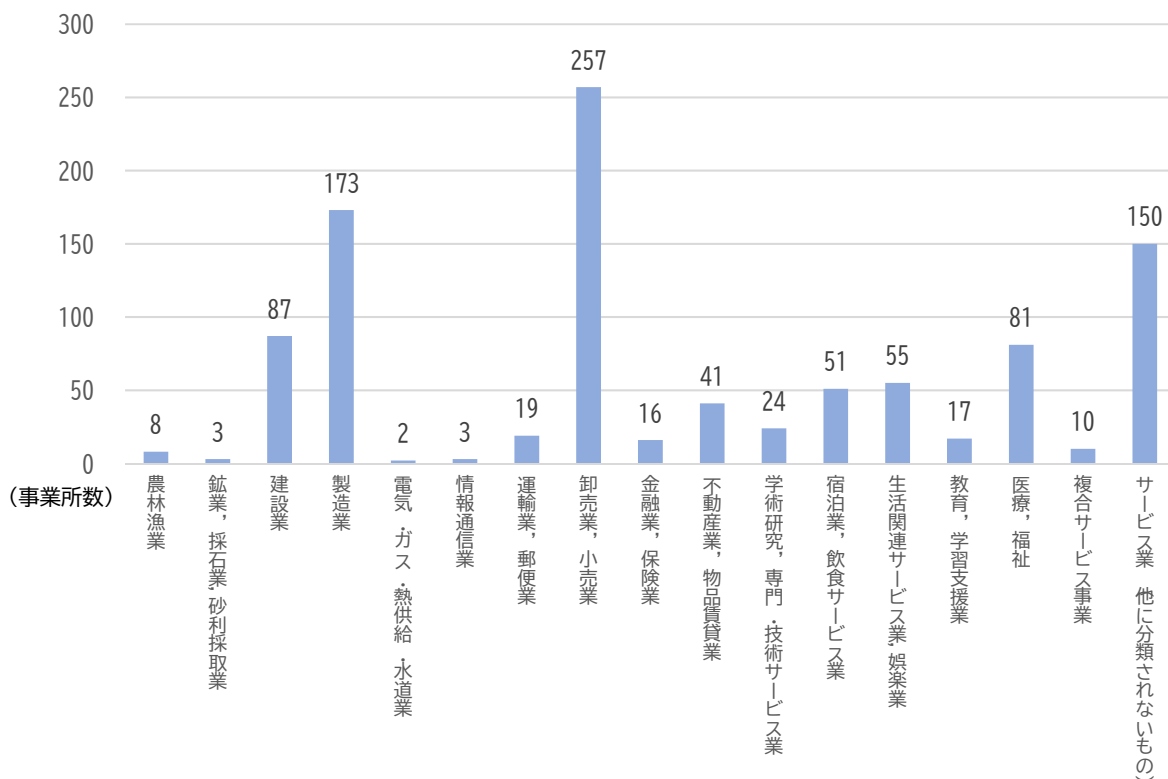
出典：かもきみの湯提供資料を基に作成

データから読み取る

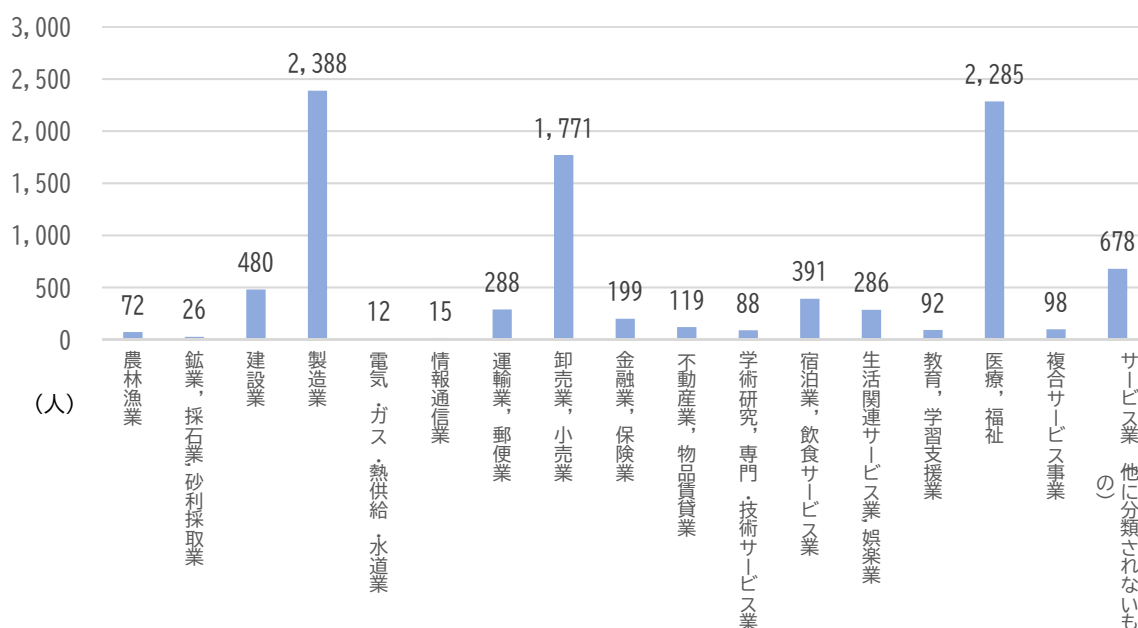
御所市の観光において例年5月は葛城山のツツジが見頃であるため多くの観光客が訪れます。残念ながら令和2年以降はコロナ禍のため観光客数が減っていますが、令和4年度には以前並の水準に回復しています。

4. 産業

■産業大分類別事業所数



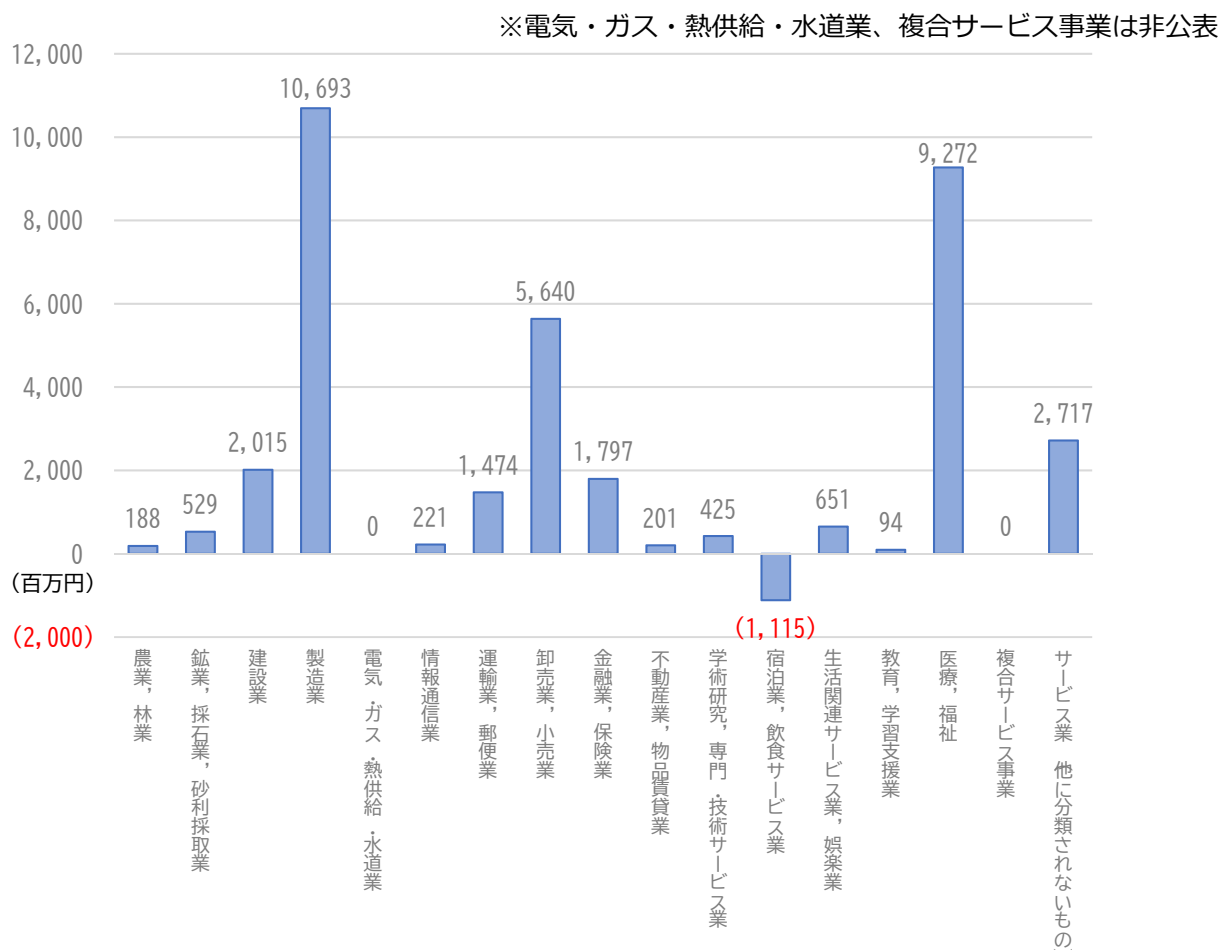
■産業大分類別従業者数



出典：総務省統計局『令和3年経済センサス 活動調査』を基に作成

4. 産業

■産業大分類別純付加価値額



出典：総務省統計局『令和3年経済センサス 活動調査』を基に作成

データから読み取る

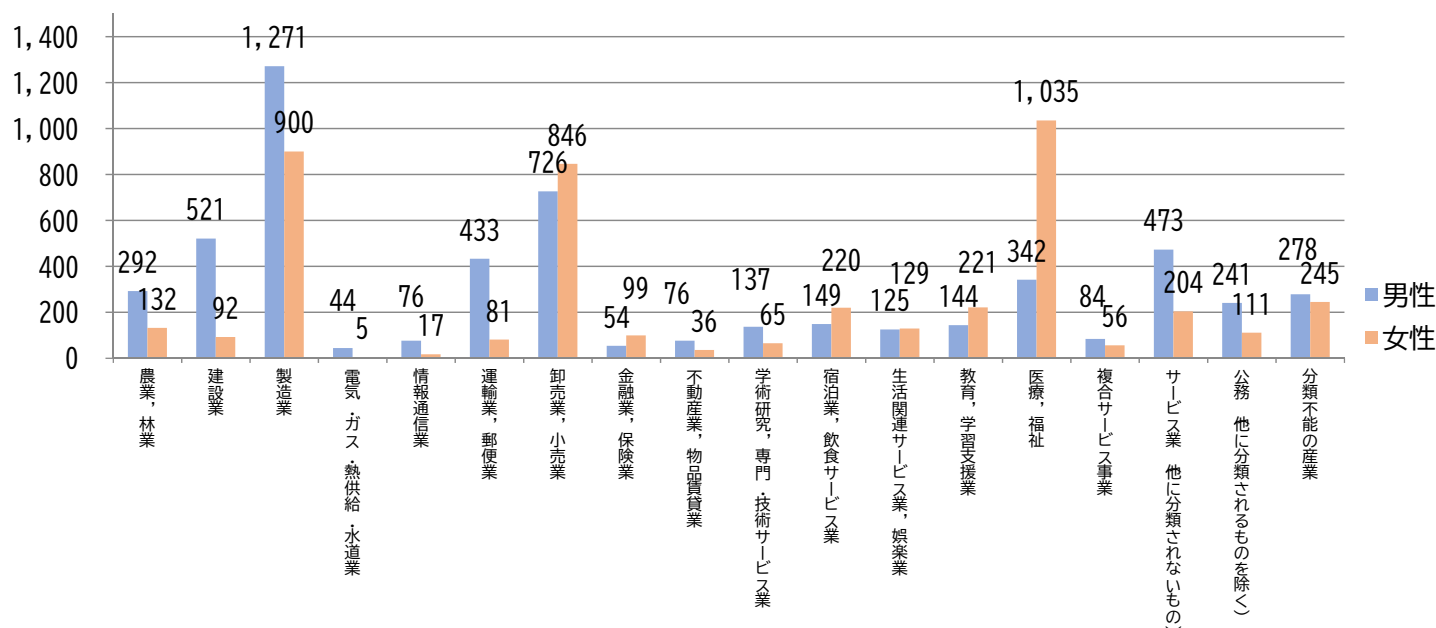
事業所数は卸売業/小売業が最も多く、製造業、サービス業と続き、これら3業種で全体の約6割を占めます。製造業の事業所数173は全事業所数の17.3%であり、奈良県全体の製造業の占める割合9.2%と比べて高くなっています。宿泊業/飲食サービス業の事業所数51は全事業所数の5.1%であり、奈良県全体の宿泊業/飲食サービス業の占める割合10.1%と比べて低くなっています。

従業者数は製造業が最も多く、医療/福祉、卸売業/小売業と続きます。これら3業種で従業者全体の約7割を占めています。

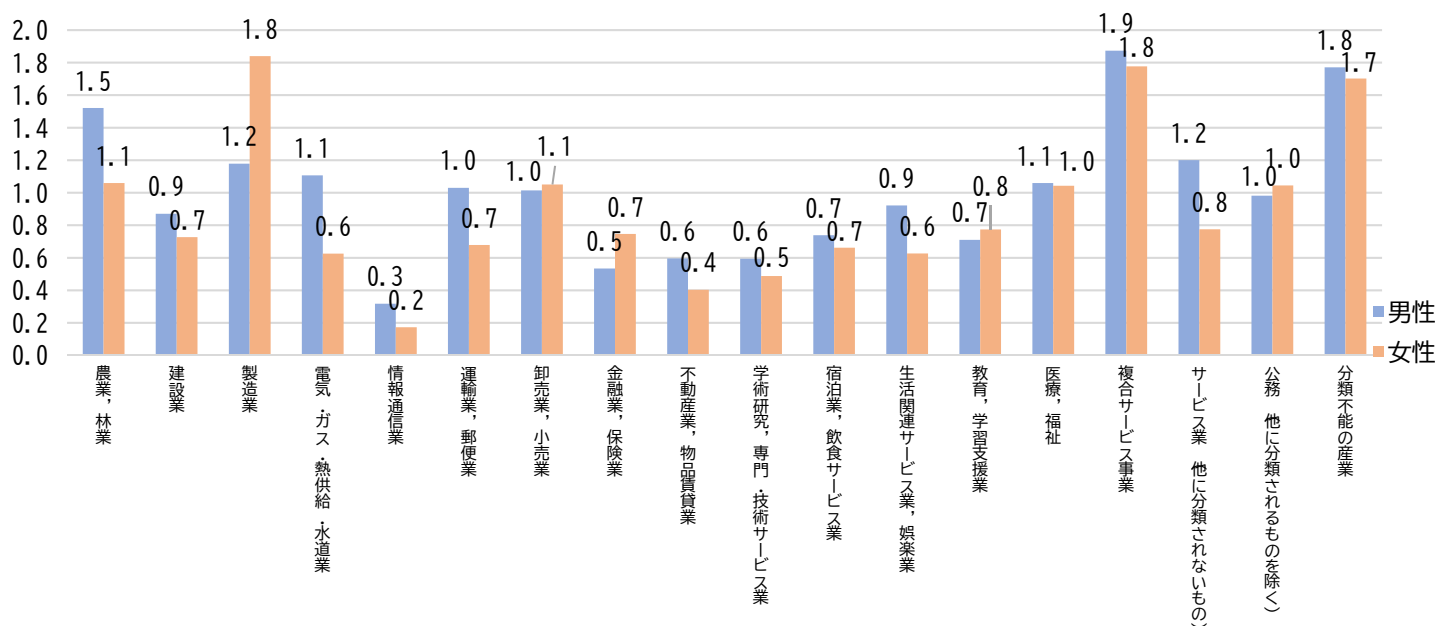
純付加価値額とは、企業が生み出した利益を指します。製造業、医療/福祉、卸売業/小売業で大きく付加価値額を生み出しています。

4. 産業

■男女別・産業別就業者数（従業地）



■男女別・産業別特化係数（従業地）



出典：総務省統計局『令和2年国勢調査』を基に作成

データから読み取る

男女別就業者数では、男性は製造業が1,271人と突出しています。女性は医療/福祉が1,035人で最も多くなっています。

また、特化係数は基盤産業を見つける簡単な方法で、以下の式で表されます。

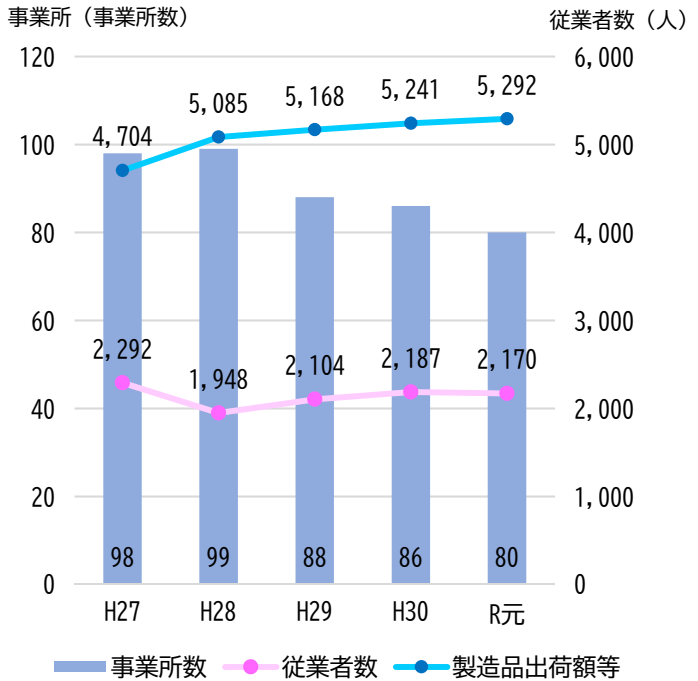
$$X \text{ 産業の特化係数} = \frac{\text{当該地方公共団体での} X \text{ 産業の就業者比率}}{\text{全国の} X \text{ 産業の就業者比率}}$$

特化係数について、農業、製造業、複合サービス業などが1を超えています。

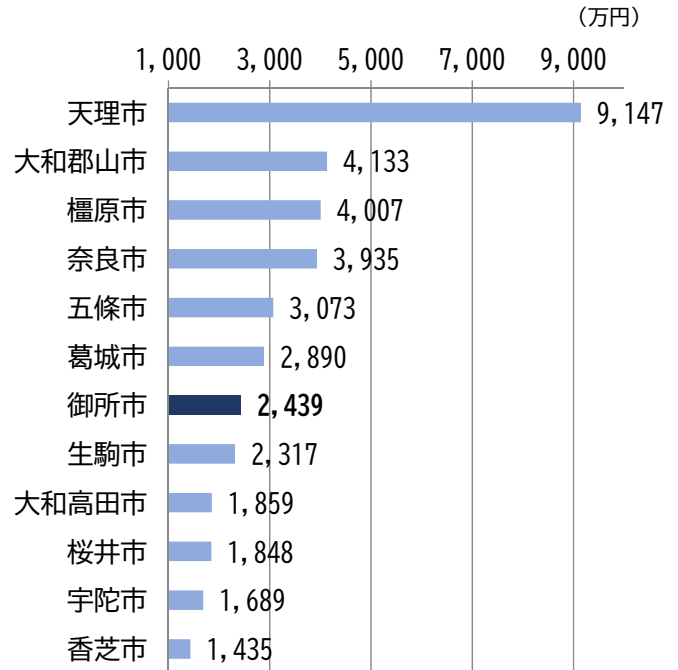
4. 産業

■工業の推移

(技術者4人以上の事業所)



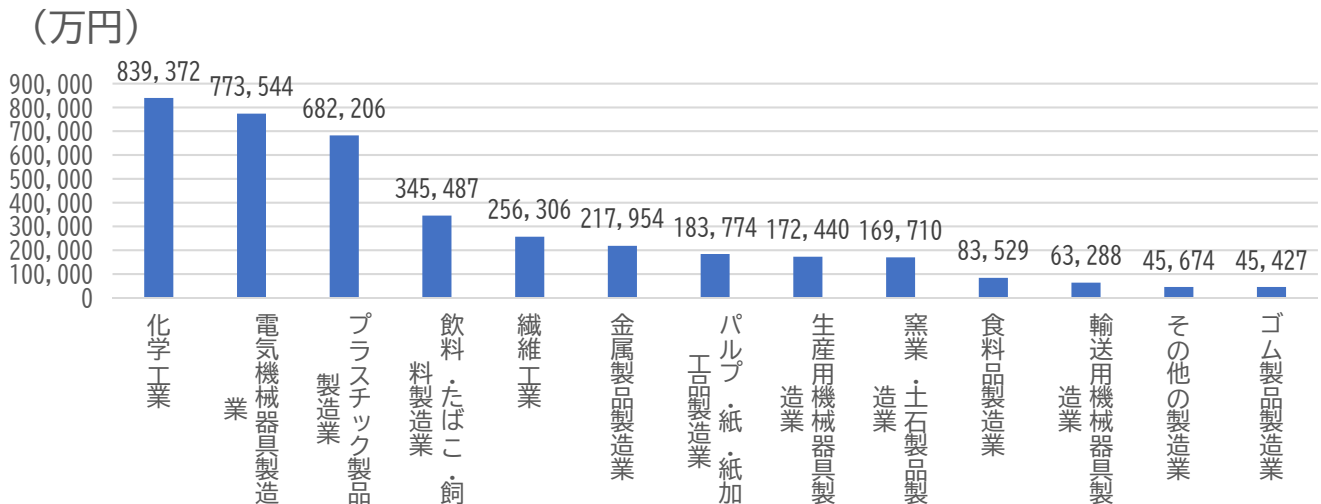
■従業者一人当たり製造品出荷額等 (平成30年)



出典：経済産業省『工業統計調査2020年確報』を基に作成

■産業中分類別(製造業)製造品出荷額等

※木材/木製品製造業、家具/装備品製造業、印刷/同関連業、鉄鋼業、非鉄金属製造業、はん用機械器具製造業は非公表



出典：総務省統計局『令和3年経済センサス活動調査』を基に作成

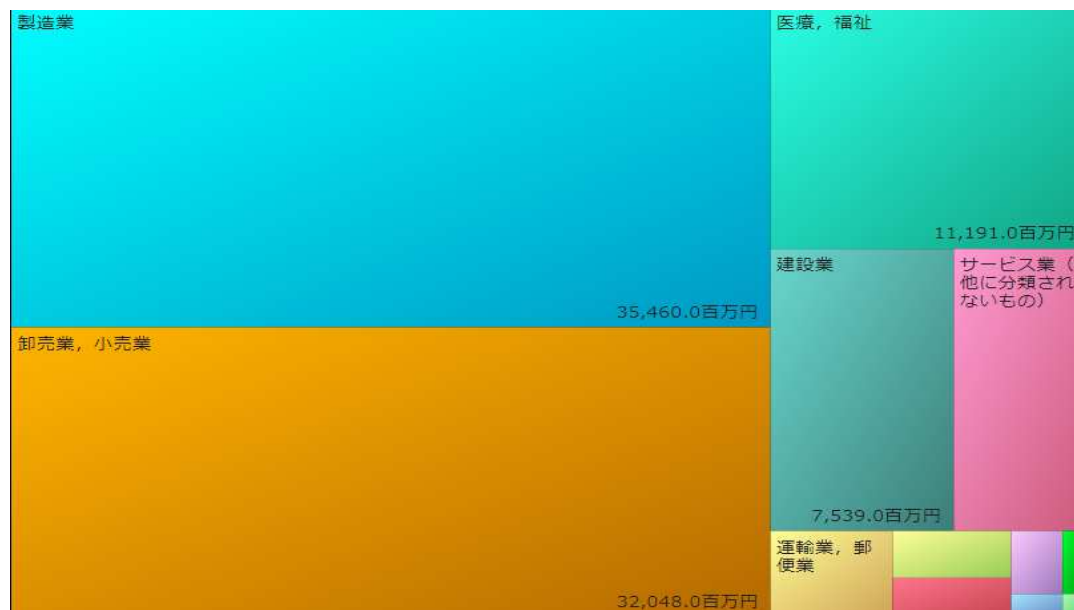
データから読み取る

従業者一人当たりの製造品出荷額等は、製造品出荷額等(円)を従業者数(人)で除したもので、県内12市中7位となっています。『工業統計調査(2019年確報)』では県内8位で、金額も一人当たり2,396万円であったので、一人当たりの金額が増えています。

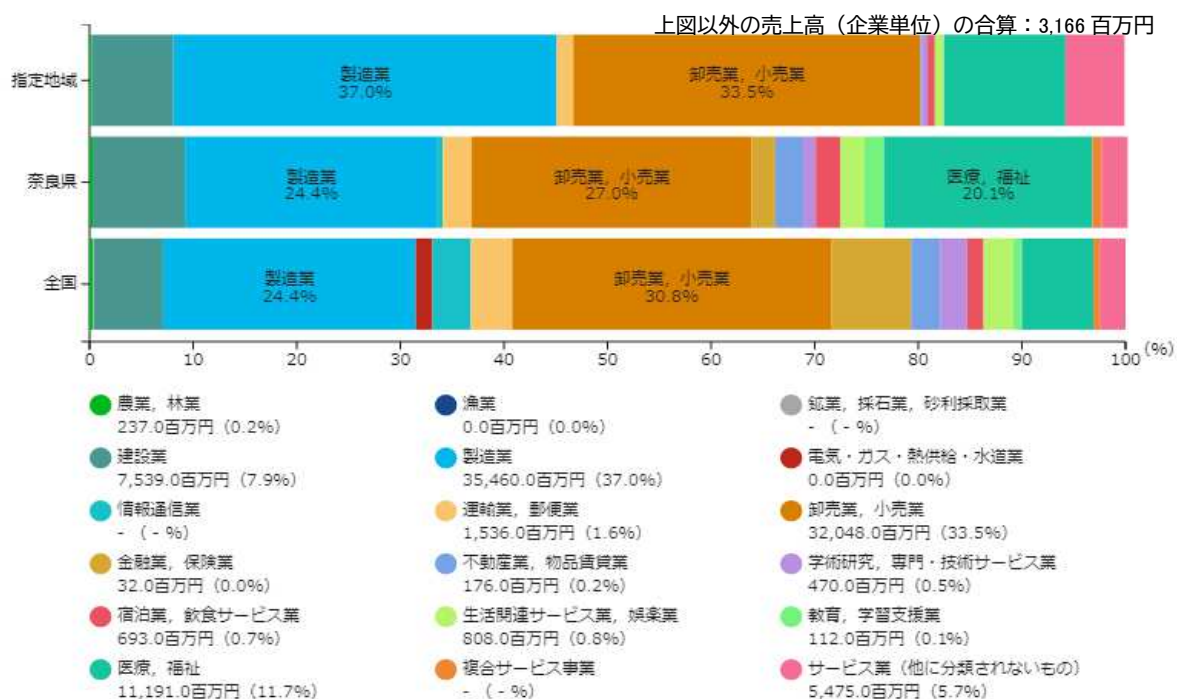
4. 産業

■全産業売上高（企業単位）大分類（平成28年）

売上高（企業単位）：98,943 百万円



↓横棒グラフに変換



出典：RESAS（地域経済分析システム）『産業構造マップ、全産業、全産業の構造。2016 企業数（企業単位）大分類』を基に作成

データから読み取る

RESAS の産業構造マップの全産業の売上高（企業別）について、本市は「製造業」、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」の順になっています。また、全国や奈良県と比べ、「製造業」、「卸売業、小売業」の割合が高くなっています。